

| | | | | | | | |
|---|--|--|--|---|--|--|--|
| Course number | | G-LAS10 80022 LJ43 | | | | | |
| Course title (and course title in English) | | デジタルガバメント論 Introduction to Digital Government | | Instructor's name, job title, and department of affiliation | | School of Government Professor,IWASHITA NAOYUKI | |
| Group | | Interdisciplinary Graduate Courses | | Field(Classification) | | Humanities and Social Sciences | |
| Language of instruction | | Japanese | | Old group | | Number of credits 2 | |
| Number of weekly time blocks | | 1 | | Class style Lecture (Face-to-face course) | | Year/semesters 2025・First semester | |
| Days and periods | | Wed.5 | | Target year Graduate students | | Eligible students For all majors | |
| (Students of School of Government cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.) | | | | | | | |
| [Overview and purpose of the course] | | | | | | | |
| <p>本講義は、最近の政府のデジタル化を巡る取り組みを踏まえ、行政手続きのデジタル化や行政組織の利用するシステムの高度化にかかる最近の動きについて整理し、そのあるべき姿について論じる。</p> <p>2020年のコロナ禍をきっかけとして、わが国の社会経済の大幅なデジタル化が進展した。こうした中で、日本政府はデジタル化をその重要な政策目標に掲げ、これまでの電子政府の取り組みをさらに一層前に進めた「デジタルガバメント」の構築を急いでいる。本講義では、政府の審議会委員として実際にデジタルガバメント化に取り組んでいる講師が、政府内における最新の議論を紹介し、それを踏まえた考え方を整理することで、今後の中央政府や地方公共団体による行政のデジタル化に関する様々な改革について体系的に理解し、その現実とあるべき姿についての考え方を提供する。</p> | | | | | | | |
| [Course objectives] | | | | | | | |
| <p>本講義は、受講者一人一人が行政官庁の立場、および、その行政サービスの利用者の立場から、行政のデジタル化のあるべき姿に関する基本的な考え方を習得し、具体的な個々の行政手続きのデジタル化について議論ができるようになることを到達目標とする。</p> | | | | | | | |
| [Course schedule and contents)] | | | | | | | |
| <p>概ね、以下の内容を各回の授業ごとに取り上げる予定。ただし、本講義で取り扱うテーマは現在進行中の議論が多いこともあり、取り上げるトピックスの内容については、その時のカレントな問題状況などに応じて必要な内容および順序の変更を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 デジタルガバメントへの長い道のり 2. コロナがもたらした「脱対面、書面、押印」の動き 3. 従来の電子政府と新しいデジタルガバメントの違い 4. マイナンバー制度の可能性とプライバシー保護 5. 電子署名法と行政手続きのオンライン化 6. 国庫金出納事務のデジタル化の実際と今後 7. 2023年のインボイス義務化とその影響 8. 行政文書のデジタル化とオープンデータ、オープンガバメント 9. デジタルガバメントのセキュリティ 10. デジタルディバイド問題とその克服 11. デジタルガバメントの推進組織とその役割分担 | | | | | | | |
| <div style="text-align: right;">Continue to デジタルガバメント論(2)</div> | | | | | | | |

デジタルガバメント論(2)

12. 各府省のデジタル化論議と自治体業務のIT化、クラウド化
13. 海外のデジタルガバメント(1) 欧州における国際的な協調
14. 海外のデジタルガバメント(2) アジアの国々の動き
15. これからのデジタルガバメント

14回分の授業終了後に、適宜の方法で「15 これからのデジタルガバメント」について説明し、また講師からのフィードバックを実施する。

[Course requirements]

受講者には特別な履修要件を課さない。講義の進度・内容は第1回の講義において行うアンケートの結果に応じて調整する。

[Evaluation methods and policy]

質問等による授業への積極的な参加（10点）、授業時間内に実施する理解度テスト（期中4回、40点）、筆記試験（50点）。やむを得ない理由で理解度テストに参加できなかった者にはレポート課題等の救済措置を講じる。理解度テストの実施方法や筆記試験の有無については、外部環境に応じて変更する可能性がある。詳細は、開講後に連絡する。

[Textbooks]

Not used

教科書は指定しないが、各回の講義内容についてはハンドアウト（講義ノート）を配布する予定。

[References, etc.]

（References, etc.）

Daniel VeitJan Huntgeburth 『Foundations of Digital Government Leading and Managing in the Digital Era』
（Springer-Verlag Berlin Heidelberg, 2014）ISBN:978-3-642-38510-0

（Related URL）

<https://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/kisei/meeting/meeting.html>(規制改革推進会議の配布資料、議事録等)

[Study outside of class (preparation and review)]

授業外学習については、ハンドアウトをもとに授業内容および授業で触れきれなかった発展的課題を確認すること。そのうえで、ハンドアウトで紹介されている関連文献・参考資料を必要に応じて読み込むことが望ましい。

[Other information (office hours, etc.)]

固定的なオフィスアワーは設けないので、面談については、メールでアポをとること。その他、必要な事項は授業の際に伝達・指示する。

以下のサイトの「教育活動」のパートに掲載する授業紹介動画を参照されたい。

<https://www.iwashita.kyoto.jp/profile>